

山王テック株式会社 エコアクション21



環境経営レポート 43期

(対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日)



山王テック(株)東日本事業所と芳賀台停留所に停車中のLRT



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

 **SANNO TEC**



埼玉県
ONE TEAM SAITAMA
SDGsパートナー

発行日 2024年7月1日

目 次

➤環境経営方針	2
➤会社概要	3~7
➤実施体制	8
➤課題とチャンス	9
➤中長期環境経営目標	10
➤環境経営活動計画	11
➤削減目標値と取り組み結果	12~15
➤環境への負荷状況（取りまとめ）	16
➤次年度の取り組み（環境目標値）	17
➤環境関連法規等の遵守状況	18
➤SDGs取り組み紹介	19~23
➤環境活動キャンペーン（43期）	24~25
➤トピックス	26
➤代表者による全体評価と見直し・指示	27

環境経営方針

環境経営方針

基本理念

山王テック株式会社は、地球環境の保全を経営課題と位置付け豊かな未来づくりに貢献するため、事業活動並びに従業員の行動を通じて、社会の持続的発展に努めます。

基本方針

資源やエネルギーを効率的に使う事を推進し、環境負荷の軽減を図ります。

- 1) 環境保全活動を推進するにあたり、以下に主な活動項目を掲げ取り組みます。
 - ① 二酸化炭素排出量削減のため使用電力の削減、使用化石燃料の削減、廃棄物排出量の削減、並びに節水に努めます。
 - ② 事業活動で発生する廃棄物を抑制し、再利用の向上に努めます。
 - ③ 環境負荷低減に配慮した車両の購入に努めます。
- 2) モビリティ開発支援、知的財産管理、アフターサービスの推進に広く関わる事業を営む、モビリティ業界の一員として環境法規等の遵守はもとより、環境意識の高い人材の育成を推進します。
- 3) 環境経営に於ける『課題とチャンス』を踏まえ、持続的発展に繋げる活動を推進します。
- 4) 地域との共生、社会貢献活動への協力に努めます。

制定日 2016年 4月 1日

改定日 2021年 4月 1日

発行日 2022年 4月 1日

山王テック株式会社
代表取締役社長 吉岡 勇

会社概要

- 名 称 山王テック株式会社
- 代表者名 代表取締役社長 吉岡 勇
- 設立 1981年9月21日
- 資本金 4,000万円
- 売上高 45億6千万円
- 従業員数 602名（2024年3月31日現在）
- URL <https://sannotec.co.jp>

■対象範囲と対象取組期間

認証・登録事業者名 : 山王テック株式会社
 認証・登録番号 : 0011543
 認証・登録年月日 : 2016年12月2日
 対象事業所 : 全事業所（本社・東日本事業所・鈴鹿オフィス）

- 環境管理責任者 特命（品質/環境推進）参与 原 昇

■エコアクション21事務局

<本社>企画管理部管理2課 主査 谷 洋祐
 <東日本事業所>企画管理部管理2課 係長 宇井 裕一
 <鈴鹿オフィス>開発2部Suzuka開発課 課長 因幡 重徳

■事業規模（2024年3月末現在）

項目	単位	本社地区		東日本事業所地区		鈴鹿オフィス地区		全社
		社内勤務者	客先勤務者	社内勤務者	客先勤務者	社内勤務者	客先勤務者	
従業員	人	52	113	57	113	2	13	580
対象人数	人	52	37	57	37	2	0	211
延べ床面積	m ²	1253.17	—	2671.76	—	83.61	—	4008.54

*対象人数は、ISO14001認証登録組織のお客様先での勤務者を除いた従業員の人数です。

会社概要

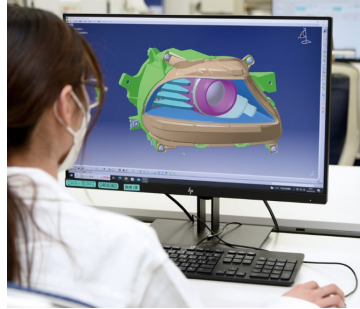
■主な事業内容

設計/解析/モデリング、技術資料編集/制作、特許/知的財産管理、翻訳/通訳、
情報システム、データファイリング、人材派遣

開発設計

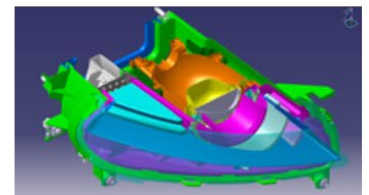
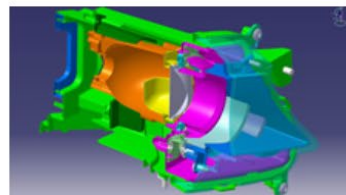
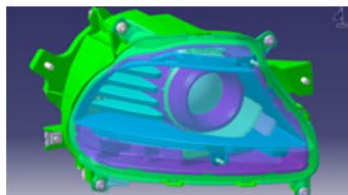
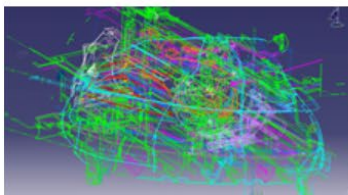
自動車関連の設計支援

自動車のエンジン / ミッション / シャーシ / 電装
/ ボディ / インテリア / エクステリアなどの設計
技術を提供する自動車開発支援



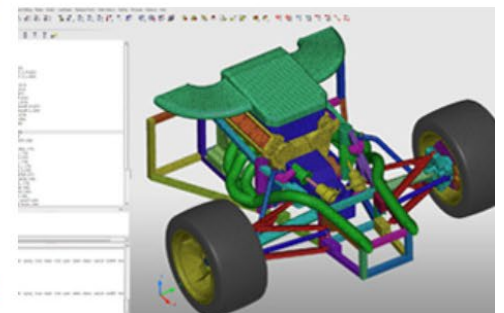
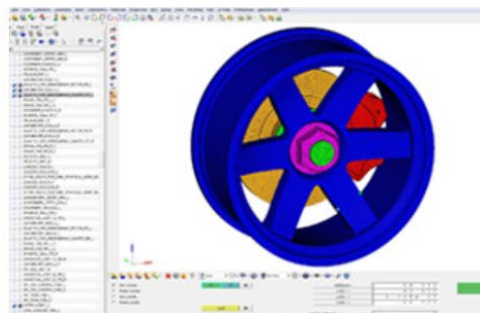
受託設計

自動車部品から自動車用品、住宅照明にいたるまで、多様な分野に対応。
自動車開発支援にて培った設計技術を駆使し、品質の良い図面（CATIAデータ）を提供致します。



CAE技術・3次元モデリング

- ❖ 車体強度・衝突安全などのCAE解析による自動車開発支援
- ❖ 金型データ作成による自動車開発支援



受託支援

- ❖ 3次元データの加工・処理による開発支援
- ❖ 解析用データ作成による開発支援

会社概要

翻訳・通訳

技術翻訳

内容に即した専門用語や表現を使用し、読み手に合わせた翻訳をご提供致します。

技術翻訳の特徴

- ❖ 経験豊富なスタッフにより、単なる“言語の変換”ではなく、読み手の立場に立った“生きた文章、わかりやすい文章”をクリエイティブ致します。
- ❖ お客様別、分野別に独自の専門用語集を作成し、用語・表記を統一。質の高い翻訳をご提供致します。
- ❖ お客様のご要望に応じて社内他部門（データファイリング、データ編集、システム開発、特許調査、設計等）の豊富な経験・高度な技術力を最大限に活用し、翻訳のみならず、さらなる付加価値をご提供致します。



技術資料作成 テクニカルイラスト

オートメーション化の先にあるもの

人間が目指したオートメーションの世界は、これまで強いられた各種の労働を削減し、私たちの暮らしを豊かにしました。しかしオートメーション化をしても依然残る核となるもの、それが私たちの目指す知識と技能です。時にはその知識や技能を活かし、更なるオートメーション化を進めることもあります。経験となって蓄積こそすれ、なくなることは決してありません。



技術資料とは

ここでいう技術資料とはオーナーズマニュアル、サービスマニュアル、パーツカタログなどの総称です。オーナーズマニュアルはユーザーに取扱い方法を、サービスマニュアルはサービスマンに整備手順を説明するものです。またパーツカタログは部品の受発注に使用されます。

それぞれの資料特性に合わせて、企画から納品までそれぞれ専門のスタッフが業務を行っております。技術資料の作成には4輪車や2輪車の整備知識・実務経験がとても有効です。弊社でも元整備士達がこれまでの経験を日々の業務に活かしています。



アナログからデジタルへ - それでも変わらぬモノ -

現在はテレビですらアナログからデジタルへの移行が進む時代。テクニカルイラストレーションの分野も例外ではありません。ロットリングを握った手書きからIllustratorやCADを使用したデジタル化が進んでいます。弊社テクニカルイラスト部門でもその流れを踏襲する形で、必要とされる新たな技術/TOOLを吸収・駆使し日々の業務に取り組んでいます。しかし、それら技術/TOOLがいかに変化しようとも「変わらないモノ」。それは私たちがイラストに傾ける情熱と、図面や取材からの的確に完成予想図を作成する熟練の技です。



会社概要

特許調査

■ 先行技術調査	出願前や審査請求前に、出願内容に類似する先行技術の有無を確認する調査です。
■ 侵害調査	開発した製品を製造、販売するにあたり障害となる特許の有無を確認する調査です。
■ テーマ調査	技術研究、製品開発等に際し、特定の技術テーマに関連する特許を収集する調査です。
■ 無効資料調査	製品を開発、製造、販売する際に障害となる特許を無効にするための調査です。
■ 経過情報調査	特定の出願に対し、出願以降の経過と現在の状況（審査、審判、年金 等）を調査致します。
■ パテントファミリー調査	各国の特許出願番号より、対応特許がどの国で公開又は登録されているかを調査致します。
■ 名義指定調査	特定の会社や個人が出願している特許を調査致します。
■ ウォッチング調査	特定の技術や競合他社の特許情報を継続的に調査致します。

1. お客様との打合せ

調査目的・調査対象技術・抽出ポイントの把握、及び納期ご予算の確認。

2. 調査方法の検討

打合わせ内容に基づき、
・特許分類/キーワード
・調査対象国/調査期間
・調査ツール
等を予備検索を実施しながら設定。

3. お見積書提出

ご予算にマッチするようにお見積りを作成します。
※状況に応じて複数のパターンにてご提案致します。

4. 調査

経験豊富なサーチャーが効率よくスクリーニングします。必要に応じて、全文チェックも致します。

5. 中間報告

必要に応じて中間報告を致します。

6. 調査結果報告

シンプル且つ要点を明確にした報告書を作成致します。また、ご希望の納品形態（紙・電子データ等）にて納品致します。

特許解析・動向分析

特許・技術文献などの技術内容解析・分類付与・抄録作製

※解析・分類結果に対し、ご要望に応じて、データベース化することも可能です。



会社概要

■所在地



東日本事業所

〒321-3325
 栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台112-3
 TEL028-677-3337 (代)
 FAX028-677-3335



鈴鹿オフィス

〒513-0806
 三重県鈴鹿市算所3-9-38豊永ビル1A
 TEL059-389-5062
 FAX059-389-5063



本社

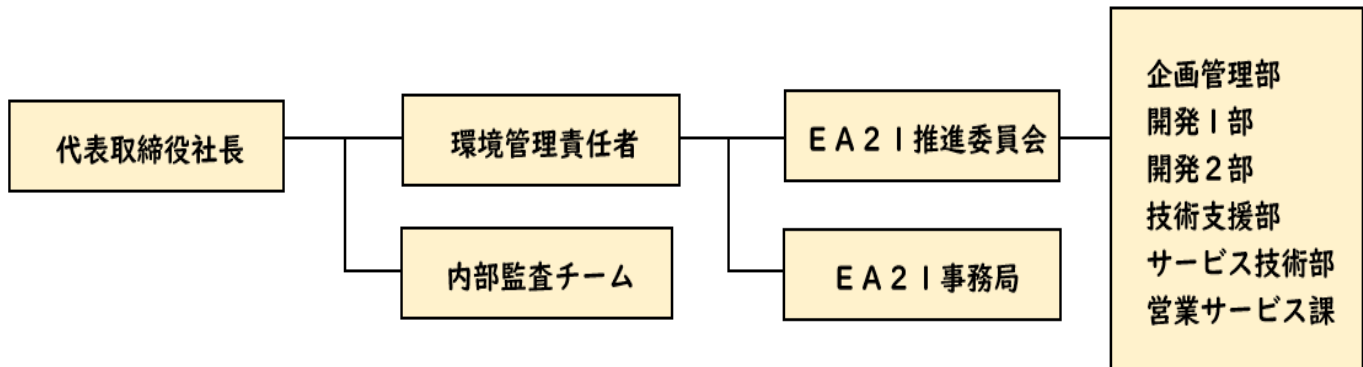
〒351-0113
 埼玉県和光市中央2-3-7
 TEL048-466-1081 (代)
 FAX048-466-7711

■沿革

1981年 9月	山王商事株式会社マイクロフィルム営業部を分離独立し、山王情報産業株式会社を設立
1986年 11月	特定派遣事業開始
1989年 1月	山王商事株式会社特許部門を吸収、設計技術者派遣開始
1989年 9月	山王テック株式会社に社名変更、資本金4,000万円に増資
1990年 4月	栃木営業所を開設(現 東日本事業所)
1994年 9月	山王テック株式会社本社、現住所(埼玉県和光市中央2-3-7)に新築移転
2004年 9月	DPM業務受託開始
2007年 4月	坂本信一社長就任
2013年 12月	東日本事業所 鈴鹿オフィス開設
2014年 9月	東日本事業所 新社屋竣工
2016年 12月	環境経営システムエコアクション21 本社サテライト認証取得
2018年 12月	環境経営システムエコアクション21 全社認証取得
2020年 2月	第23回環境コミュニケーション大賞 環境レポート部門 新人賞受賞
2022年 4月	代表取締役会長に坂本信一就任、代表取締役社長に吉岡勇就任

実施体制

■環境経営システム組織図



■役割と責任と権限

役職・組織名	役割・責任・権限
代表取締役社長	1) 環境経営に関する統括責任者 2) 環境管理責任者、エコアクション21事務局員の任命 3) 環境経営資源の確保 4) 全体評価と見直しの実施 5) 環境目標及び環境計画書の承認 6) 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	1) エコアクション21活動全般の構築・運用 2) 環境関連法規及び遵守性評価 3) エコアクション21の実施状況を代表者へ報告 4) 環境経営レポートの確認
エコアクション21事務局	1) 環境管理責任者の補佐、委員会の活動事務局 2) 環境目標、環境活動実施計画の策定 3) 環境活動実績の集計 4) 環境経営レポートの作成
部門責任者	1) 環境目標、環境実行計画の実施責任者 2) 是正及び予防と対策立案の実施責任者 3) 適用される法的要求事項の遵守
エコアクション21推進委員会	1) 部門責任者の補佐 2) 環境活動実施状況を把握し、部門責任者及び環境管理責任者に報告 3) 従業員に対する教育の実施
内部監査チーム	1) 環境に関する内部監査の計画 2) 環境に関する内部監査の実施・報告
一般従業員	1) 環境目標、環境活動計画の実施 2) 省エネ、分別排出等決められた事項の実施 3) 適用される法的要求事項の遵守

課題とチャンス

	課題	チャンス	環境経営方針
外部	①働き方改革（政府方針）への順応 ②感染症対策を踏まえた、就業環境の創造	①品質改善活動の深化に依る、効率の追求と体制強化 ＊帳票データ確認用マクロを生成し、紙出力を抑制と目視の確認が容易となる仕組みの確立、ペーパーレス化、作業時間抑制等に効果を発揮 ①②デジタルソリューションの利用に依る、事務管理（勤怠/ 各種申請処理）の効率化 ＊社員個々へのWEB会議システム普及に依る移動時間、経費削減、CO2削減	■環境法規制の遵守 ■省資源、省エネの推進 ■顧客満足度の向上 ■二酸化炭素排出量の抑制 ＊使用電力の削減 ＊使用化石燃料の削減 ＊廃棄物排出量の削減 ＊環境配慮車両の購入促進 ■社会貢献活動の推進 ＊エコキャップ運動 ＊献血活動 ＊地域貢献（ロードサポート清掃等）
	③社員増加に伴う将来的な事業所駐車スペース飽和対応 【東日本事業所】	③JR宇都宮駅⇄芳賀・高根沢工業団地ルートにて2023年にLRT（次世代路面電車）が開通 当社正門前に停留所（芳賀台）が隣接する立地条件を活かす ＊LRT利用通勤手段への変更による、渋滞緩和が期待出来る ＊求職者に対する、通勤の利便性が訴求出来る ＊拠点間移動の公共交通機関の利用が促進され、CO2排出削減が期待出来る ＊顧客への移動が容易となり、社有車保有台数の削減が期待できる	
内部	①自動車新技術の習得機会の創出と定着 ②新入社員の即戦力化の対応	①②自前教育プログラム策定と社員教育の充実を図り、工業系出身者以外の人材採用及び、社内JRの促進が期待出来る	環境経営目標・活動計画 ■電力、ガソリン使用量、廃棄物排出量の2022年比1%削減 ■社内教育制度の充実（環境教育含む）

中長期環境経営目標

項目	年度	単位	事業所	2022年度実績 基準年度	2023年度	2024年度	2025年度	
CO2 総排出量		kg-CO2	本 社	34,969	34,619 (1% DOWN)	2023年7月より、再生可能エネルギー 100%電力に切り替え ガソリンCO2排出量のための管理に変更		
			東日本 事業所	84,459	83,614 (1% DOWN)			
			鈴鹿 オフィス	2,754	2,726 (1% DOWN)			
電力	オフィス電力使用量	kwh	本 社	77,535	76,760 (1% DOWN)	2023年度実績値 (1%DOWN)	2024年度実績値 (1%DOWN)	
			東日本 事業所	190,110	187,946 (1% DOWN)	2023年度実績値 (1%DOWN)	2024年度実績値 (1%DOWN)	
			鈴鹿 オフィス	5,075	5,024 (1% DOWN)	2023年度実績値 (1%DOWN)	2024年度実績値 (1%DOWN)	
	CO2 排出量	kg-CO2	本 社	29,153	28,861 (1% DOWN)	2023年7月より、再生可能エネルギー 100%電力に切り替え CO2排出実質ゼロ達成 管理対象外に変更		
			東日本 事業所	71,481	70,766 (1% DOWN)			
			鈴鹿 オフィス	2,329	2,306 (1% DOWN)			
ガソリン	ガソリン使用量	ℓ	本 社	2,507	2,482 (1% DOWN)	2023年度実績値 (1%DOWN)	2024年度実績値 (1%DOWN)	
			東日本 事業所	5,594	5,538 (1% DOWN)	2023年度実績値 (1%DOWN)	2024年度実績値 (1%DOWN)	
			鈴鹿 オフィス	183	181 (1% DOWN)	2023年度実績値 (1%DOWN)	2024年度実績値 (1%DOWN)	
	CO2 排出量	kg-CO2	本 社	5,816	5,758 (1% DOWN)	2023年度実績値 (1%DOWN)	2024年度実績値 (1%DOWN)	
			東日本 事業所	12,978	12,848 (1% DOWN)	2023年度実績値 (1%DOWN)	2024年度実績値 (1%DOWN)	
			鈴鹿 オフィス	425	421 (1% DOWN)	2023年度実績値 (1%DOWN)	2024年度実績値 (1%DOWN)	
廃棄物	廃棄物排出量	kg	本 社	一般	860	852 (1% DOWN)	2023年度実績値 (1%DOWN)	2024年度実績値 (1%DOWN)
			東日本 事業所	一般	2,815	2,787 (1% DOWN)	2023年度実績値 (1%DOWN)	2024年度実績値 (1%DOWN)
			鈴鹿 オフィス	一般	21	21 (1% DOWN)	2023年度実績値 (1%DOWN)	2024年度実績値 (1%DOWN)
水使用量	上水使用量	m³	本 社	328	328 (2022年度実績)	2023年度実績値	2024年度実績値	
			東日本 事業所	577	577 (2022年度実績)	2023年度実績値	2024年度実績値	
			鈴鹿 オフィス	17	17 (2022年度実績)	2023年度実績値	2024年度実績値	
社会貢献	エコキャップ運動	kg	本 社	26.6	26.9 (1% UP)	2023年度実績値 (1%UP)	2024年度実績値 (1%UP)	
			東日本 事業所	72.5	73.2 (1% UP)	2023年度実績値 (1%UP)	2024年度実績値 (1%UP)	
			鈴鹿 オフィス	6.8	6.9 (1% UP)	2023年度実績値 (1%UP)	2024年度実績値 (1%UP)	

<電 力> 2022年 調整後排出係数(東電パワーグリッド)⇒(0.376)本社・東日本事業所

2022年 調整後排出係数(中部電力)⇒(0.459)鈴鹿オフィス

★2023年7月より、再生可能エネルギー100%電力(レジル)⇒本社・東日本事業所・鈴鹿オフィス

<ガソリン> 2022年 調整後排出係数(環境省)⇒(2.32)本社・東日本事業所・鈴鹿オフィス

*化学物質の使用は無く、目標設定しておりません。

環境経営活動計画



〈電力使用量の削減〉

- ・ 昼休み時間の照明の間引き消灯
- ・ 室温に対して空調の適切な温度管理
- ・ クールビス、ウォームビスの採用
- ・ 不在エリアの空調停止と照明の停止
- ・ OA機器の節電モードでの運用
- ・ 外出/帰宅時のPC電源OFF徹底



〈ガソリン使用量の削減〉

- ・ 公共交通機関の積極利用
- ・ 急発進、急加速の禁止
- ・ 出張時の社有車同乗推進
- ・ 社有車のエコカー配備の推進
- ・ テレビ会議システムの有効利用



〈廃棄物の削減〉

- ・ コピー用紙の必要に応じた両面利用
- ・ 紙ごみのリサイクルを促進
- ・ Web会議の推進
- ・ 宅配弁当の利用推進
- ・ 使用済封筒の再利用
- ・ ウォーターサーバーの利用



〈水使用量の削減〉

- ・ 手洗いや、洗い物において日常的な節水励行

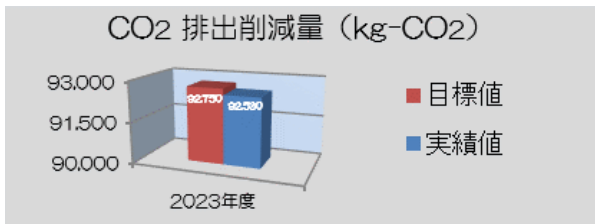


〈地域との共生、社会貢献〉

- ・ エコキャップ運動の推進
- ・ ロードサポートの推進（近隣道路歩道部の清掃活動）
- ・ 献血運動の推進
- ・ 自販機を通してのハートフル募金（赤い羽根）の推進

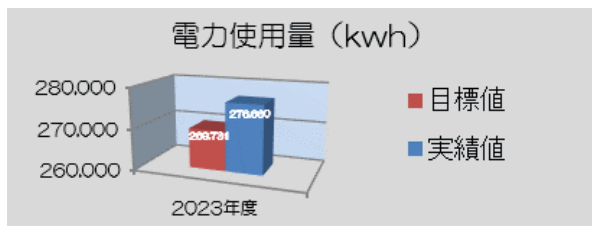
削減目標値と取り組み結果（全社）

CO₂ 総排出量/92,750k g-CO₂⇒ 92,530k g-CO₂



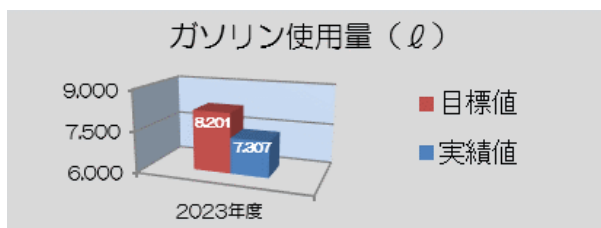
2023年度目標に対して、
0. 2%DOWNで達成!

電力使用量/269,731kwh ⇒ 276,660kwh



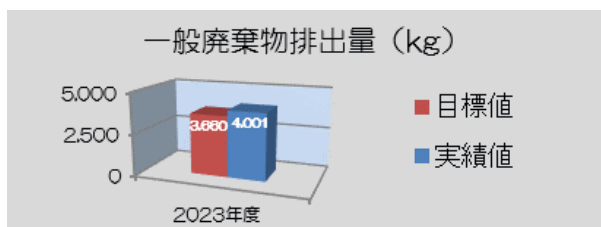
2023年度目標に対して、
2. 6%UPにて未達成…

ガソリン使用量/8,201ℓ ⇒ 7,307ℓ



2023年度目標に対して、
10. 9%DOWNで達成!

一般廃棄物/3,660ℓ ⇒ 4,001ℓ



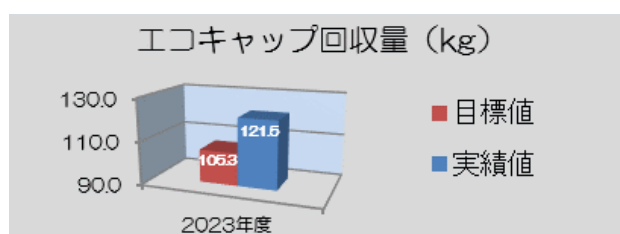
2023年度目標に対して、
9. 3%UPにて未達成…

水使用量/922m³⇒ 1,013m³



2023年度目標に対して、
9. 9%UPで未達成…

エコキャップ運動（回収量）/105.3kg⇒ 121.5kg



2023年度目標に対して、
15. 4%UPで達成!

削減目標値と取り組み結果（本社）

CO₂ 総排出量/26,482 k g-CO₂ ⇒ 25,206 k g-CO₂



2023年度目標に対して、
4. 8% DOWNで達成!

電力使用量/76,760kwh ⇒ 75,570kwh



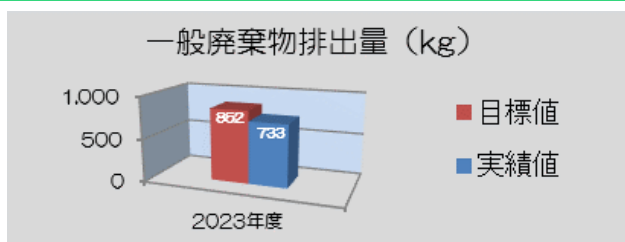
2023年度目標に対して、
1. 6%DOWNで達成!

ガソリン使用量/2,482 ℓ ⇒ 2,070 ℓ



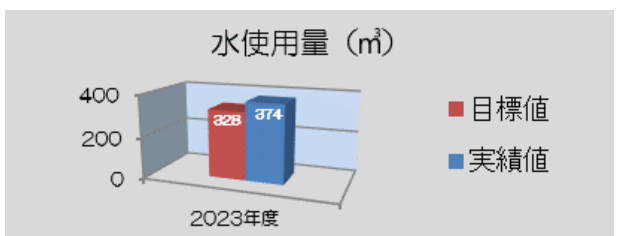
2023年度目標に対して、
16. 6%DOWNにて達成!

一般廃棄物排出量/852 k g ⇒ 733 k g



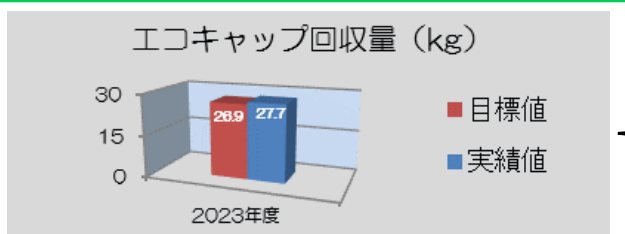
2023年度目標に対して、
14. 0%DOWNで達成!

水使用量/328m³ ⇒ 374m³



2023年度目標に対して、
14. 0%UPにて未達成…

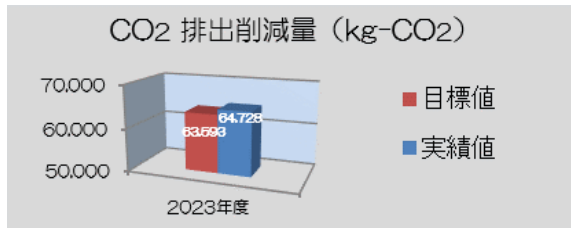
エコキャップ運動（回収量）/26.9 k g ⇒ 27.7 k g



2023年度目標に対して、
3. 0%UPにて達成!

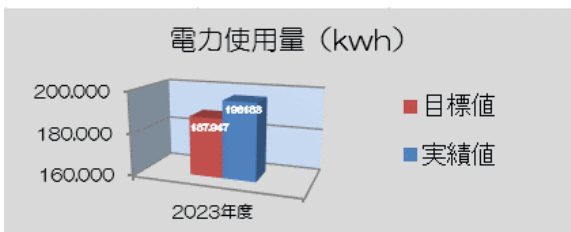
削減目標値と取り組み結果（東日本事業所）

CO₂ 総排出量/63,593k g-CO₂ ⇒ 64,728k g-CO₂



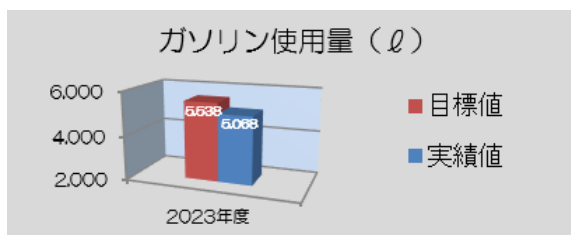
2023年度目標に対して、
1.8%UPにて未達成…

電力使用量/187,947kwh ⇒ 196,183kwh



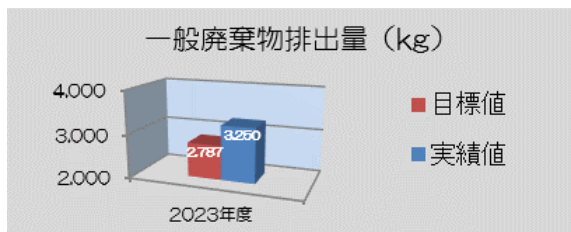
2023年度目標に対して、
4.4%UPにて未達成…

ガソリン使用量/5,538ℓ ⇒ 5,068ℓ



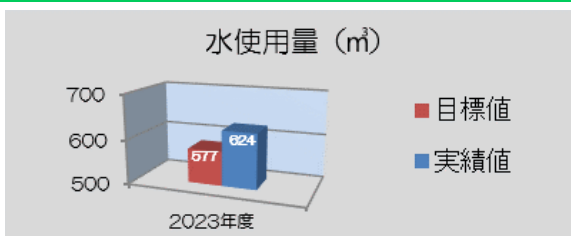
2023年度目標に対して、
8.5%DOWNで達成！

一般廃棄物排出量/2,787k g ⇒ 3,250k g



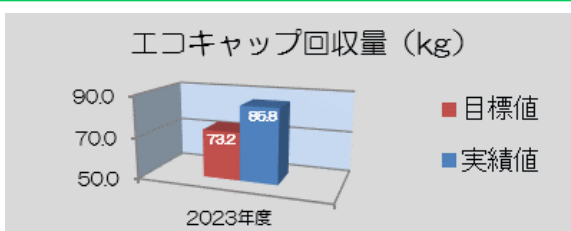
2023年度目標に対して、
16.6%UPにて未達成…

水使用量/577m³ ⇒ 624m³



2023年度目標に対して、
8.1%UPにて未達成…

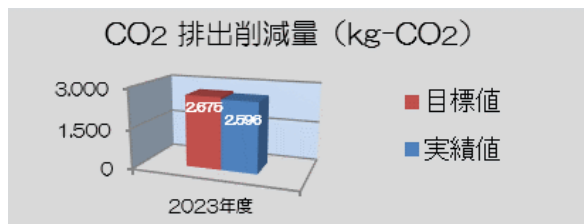
エコキャップ運動（回収量）/73.2k g ⇒ 85.8kg



2023年度目標に対して、
17.2%UPで達成！

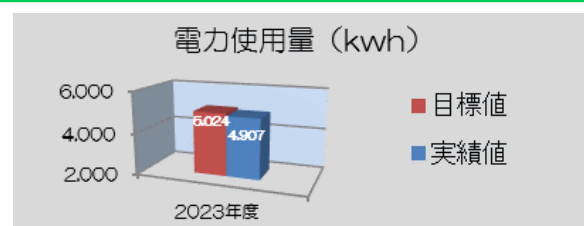
削減目標値と取り組み結果（鈴鹿オフィス）

CO₂総排出量/2,675k g-CO₂ ⇒ 2,596k g-CO₂



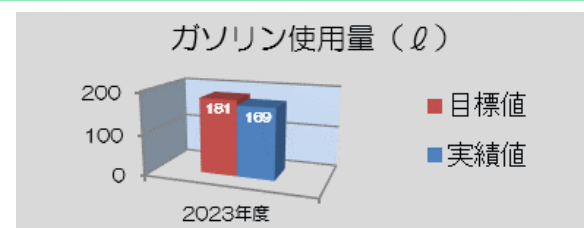
2023年度目標に対して、
3.0% DOWNで達成！

電力使用量/5,024kwh ⇒ 4,907kwh



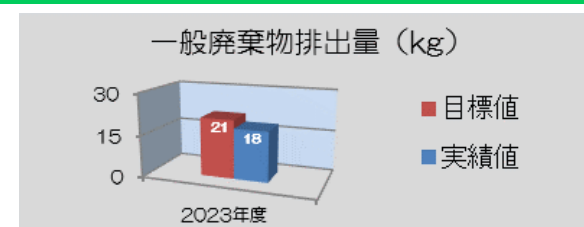
2023年度目標に対して、
2.3%DOWNで達成！

ガソリン使用量/181ℓ ⇒ 169ℓ



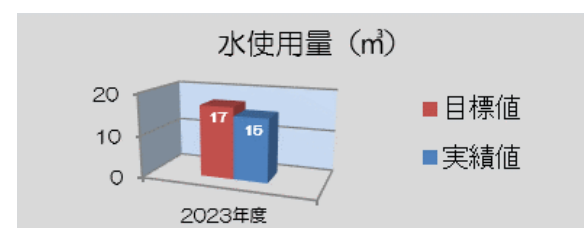
2023年度目標に対して、
6.6%DOWNで達成！

一般廃棄物排出量/21k g ⇒ 18k g



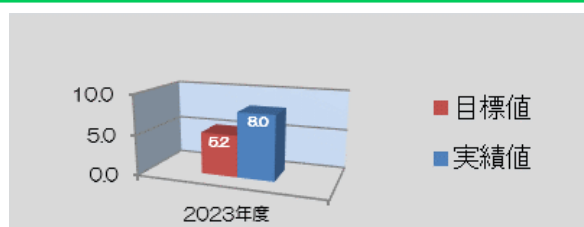
2023年度目標に対して、
14.3%DOWNで達成！

水使用量/17m³ ⇒ 15m³



2023年度目標に対して、
11.8%DOWNで達成！

エコキャップ運動（回収量）/5.2k g ⇒ 8.0k g



2023年度目標に対して、
53.8%UPで達成！

環境への負荷状況（取りまとめ）

【2023年度】

項目		単位	本社			東日本事業所			鈴鹿オフィス			全社		
			計画値	活動実績	達成状況	計画値	活動実績	達成状況	計画値	活動実績	達成状況	計画値	活動実績	達成状況
CO2 総排出量		kg-CO2	26,482	25,206	○	63,593	64,728	△	2,675	2,596	○	92,750	92,530	○
電力	電力使用量	kwh	76,760	75,570	○	187,947	196,183	△	5,024	4,907	○	269,731	276,660	△
	CO2 総排出量	kg-CO2	20,752	20,403		50,746	52,969		2,256	2,203		73,754	75,575	
ガソリン	ガソリン使用量	ℓ	2,482	2,070	◎	5,538	5,068	○	181	169	○	8,201	7,307	◎
	CO2 総排出量	kg-CO2	5,758	4,802		12,848	11,758		420	392		19,026	16,952	
廃棄物	一般廃棄物排出量	kg	852	733	◎	2,787	3,250	×	21	18	◎	3,660	4,001	×
水使用量	上水使用量	m³	328	374	×	577	624	△	17	15	◎	922	1,013	×
社会貢献	エコキャップ運動	kg	26.9	27.7	○	73.2	85.8	◎	5.2	8.0	◎	105.3	121.5	◎

*取組評価

◎⇒達成（-10%以上）

○⇒達成（-10%未満～0%）

△⇒未達成（0～+10%未満）

×⇒未達成（+10%以上）

※化学物質の使用が無い事から、目標設定はしていません。

次年度の取り組み（環境経営目標値及び取組計画）

項目		年度	単位	事業所		2022年度 基準年度	2023年度
電力	数値目標	電力使用量	kwh	本 社		77,535	76,760 (1% DOWN)
				東日本 事業所		190,110	187,946 (1% DOWN)
				鈴鹿 オフィス		5,075	5,024 (1% DOWN)
	取組計画	・昼休み時間の照明の間引き消灯 ・不在エリアの空調停止と照明の停止 ・外出/帰宅時のPC電源OFF徹底 ・室温に対して空調の適切な温度管理 ・OA機器の節電モードでの運用					
ガソリン	数値目標	ガソリン使用量	ℓ	本 社		2,507	2,482 (1% DOWN)
				東日本 事業所		5,594	5,538 (1% DOWN)
				鈴鹿 オフィス		182	181 (1% DOWN)
	取組計画	・公共交通機関の積極利用 ・出張時の社有車同乗推進 ・テレビ会議システムの有効利用 ・急発進、急加速の禁止 ・社有車のエコカー配備の推進 ・プラグインハイブリッド／EV車の積極利用					
廃棄物	数値目標	廃棄物排出量	kg	本 社	一般	860	852 (1% DOWN)
				東日本 事業所	一般	2,815	2,787 (1% DOWN)
				鈴鹿 オフィス	一般	21	21 (1% DOWN)
	取組計画	・宅配弁当の利用推進 ・使用済封筒の再利用 ・ウォーターサーバーの利用 ・コピー用紙の必要に応じた両面利用 ・紙のシュレッダー処理を削減し、リサイクルを促進					
水使用量	数値目標	上水使用量	m³	本 社		328	328 (2022年度実績維持)
				東日本 事業所		577	577 (2022年度実績維持)
				鈴鹿 オフィス		17	17 (2022年度実績維持)
	取組計画	・手洗いや、洗い物において日常的な節水励行					
社会貢献	数値目標	エコキャップ運動	kg	本 社		26.6	26.9 (1% UP)
				東日本 事業所		72.5	73.2 (1% UP)
				鈴鹿 オフィス		6.8	6.9 (1% UP)
	取組計画	・エコキャップ回収BOXを社内に設置 ・社内や自宅で発生したキャップの回収					

※化学物質の使用が無いことから、目標設定はしていません。

環境関連法規等の遵守状況

法規名		遵守事項（規制内容）	適用条項	実施状況	判定
廃物処理法	一廃	可燃ごみは一廃業者と契約しているか	6条の二	許可業者の(株)勤労衛生と契約している	
	契約書	最終処分場が明記されているか	12条	最終処分場の確認	
		契約書の期限は過ぎていないか	//	自動延長での更新	
		5年間保管しているか	//	保管されているかの確認	
		許可品目と委託廃棄物とが合致するか	//	一般可燃物/一般不燃物の確認	
	保管場所	種類/管理者/保管量の表示があるか	12条	掲示板60cm×60cmの設置	
		適切な場所に保管しているか	//	専用のごみ収容所への保管	
		飛散/流出防止対策をとっているか	//	屋根/へい/仕切りがあり、流失なし	
	マニフェスト	A票照合確認欄への日付記入管理を行っているか	12条の三	マニフェストの照合確認欄の確認	
	フロン排出抑制法	簡易点検を適切に行い、設備(空調)の維持管理に努めているか	16条	3ヶ月に一度の簡易点検を実施し、簡易点検管理表の確認	
家電リサイクル法	該当する家電は、適切に引き取ってもらっているか	6条	リサイクル券の確認		
オゾン層保護法	排出の規制及び使用の合理化に関する措置等を講じているか	1条	フロン排出抑制法の遵守確認		

※環境法規等の遵守活動を行い、違反や訴訟も発生していません。

SDGs 取り組み紹介①

■『とちぎSDGs推進企業』、『埼玉県SDGsパートナー』への登録

山王テック株式会社は、地球環境の保全を経営課題と位置付け、豊かな未来づくりへの貢献を事業活動ならびに従業員の行動を通じて取り組んで参りました。

昨今、気候変動による様々な自然災害、人権問題、そして感染症拡大など、企業を取り巻く環境は大きく変わり、“企業の社会的責任”が益々求められています。

山王テック株式会社はSDGs（持続可能な開発目標）の「環境」「社会」「経済」の3側面それぞれに具体的に達成すべき目標を設定し、2022年度に『とちぎSDGs推進企業』、『埼玉県SDGsパートナー』へ登録しました。

未来志向型企业として、人や環境に配慮した持続可能な社会づくりに貢献して参ります。



とちぎSDGs推進企業 登録マーク

2022年7月15日登録



埼玉県
ONE TEAM SAITAMA
SDGsパートナー

2022年11月30日登録

■3側面の重点取組と指標（登録申請内容）

本社（埼玉）	三側面	SDGs達成に向けた重点取組	指標
	環境	一般廃棄物の排出量の削減及び社有車の環境配慮型車両への移行によって、自社排出CO2削減を推進 <2021年度の数値> ①一般廃棄物排出量:884kg/年 ②ガソリン使用量:5,326ℓ/年(2019年実績) ③環境配慮型車両導入率:38%(3台/8台)	<2030年に向けた指標> ①2021年比 8.0%削減 ②0ℓ/年 ③100% <取組開始3年後に向けた指標> ①2021年比 4.0%削減 ②3,000ℓ/年 ③63%
	社会	社員参加型社会貢献活動の推進 「彩の国ロードサポート制度」に登録し、地域の環境美化を推進 <2021年度の数値> 環境美化活動実施回数:0回 延べ0名参加	<2030年に向けた指標> 12回/年 延べ150名参加 <取組開始3年後に向けた指標> 15回/年 延べ120名参加
	経済	働きがいと経済成長の両立を図るため、従業員の有給休暇取得を推進する。 <2021年度の数値> ①埼玉県「多様な働き方実践企業認定制度」:未登録 ②有給休暇平均取得日数:11.6日/年	<2030年に向けた指標> ①『プラチナ認定』登録②平均取得日15日 平均取得率50% <取組開始3年後に向けた指標> ①『ゴールド認定』登録②平均取得日数:13日/年

東日本事業所（栃木）	三側面	SDGs達成に向けた重点取組	2030年に向けた指標
	環境 社会 経済	自社排出CO2削減の推進	■再生可能エネルギー電力導入 *2022年30%⇒2030年100% 再生可能エネルギー導入100%、環境車両比率100% ■環境車両(EV/HYBRID)比率 *2022年52.6%⇒2030年100%
	環境 社会 経済	ペーパーレス化の推進	■申請書類及び通知、会議資料、社内書類 *2030年100%
	環境 社会 経済	ダイバーシティ経営の推進	■障害者雇用社員の技術分野への転換 *2022年35%⇒2030年40%

SDGs 取り組み紹介②

■対象ゴールと取り組み施策

対象ゴール	取り組み施策	対象ゴール	取り組み施策
3 すべての人に健康と福祉を 	〈健康と福祉〉 ・エコキャップの寄付(ワクチン寄付/障害者支援) ・献血活動 ・自販機を通してのハートフル福祉募金への協賛 ・コロナ感染症対策機器の設置と運用の徹底 ・全従業員(パート含む)の健診実施	4 質の高い教育をみんなに 	〈環境経営レポートの公表〉 ・ホームページ/イントラ/EA21中央事務局 〈教育・訓練の実施〉 ・業務専門教育 ・階層別/役職別研修の実施 ・情報セキュリティ/環境教育講習の実施
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	〈環境関連法規の遵守〉 ・該当法規の遵守 〈電力・ガソリン使用量の削減〉 ・再生可能エネルギー電力の導入(鈴鹿除く) ・社有車のエコカー(HEV/PHEV/EV)配備の推進 ・拠点間移動の削減にオンライン会議の有効利用 ・OA機器の節電モードでの運用 ・エコドライブの励行 ・温湿度計の設置による適切な室温管理 ・不在エリアの空調及び照明の電源OFF ・照明の間引き消灯 〈廃棄物の削減/リサイクル〉 ・給与明細の電子配信等、デジタルソリューションの活用による、紙出力の削減 ・ペーパーリサイクルBOXの利用 ・宅配弁当の利用促進(回収容器利用ゴミ削減) ・産業廃棄物の分別 ・コピー用紙の必要に応じた両面利用	5 ジェンダー平等を実現しよう 	〈女性の雇用促進〉 ・産休、育休、時短制度100%承認、職場復帰をサポート ・女性活躍推進法に基づく行動計画の策定・情報公開 〈働きがいと経済成長〉 ・働き方改革の推進(リモートワーク導入) ・定年後の再雇用100%(希望者に対して) ・障がい者の雇用促進 ・同一労働同一賃金ガイドラインに沿った整備促進
12 つくる責任 つかう責任 		8 働きがいも経済成長も 	
13 気候変動に具体的な対策を 		17 パートナリプで目標を達成しよう 	〈地域/環境活動への輪を広げる〉 ・彩の国ロードサポートに登録【本社】 ＊周辺道路歩道部の清掃活動 ・埼玉県SDGs官民連携プラットフォームに登録【本社】 ＊活動の輪を広げる情報を収集 ・芳賀町工業団地連絡協議会活動の推進【東日本事業所】 ＊周辺道路歩道部の清掃活動、交通安全立哨の実施
15 陸の豊かさも守ろう 		6 安全な水とトイレを世界中に 	〈水使用量の削減〉 ・手洗い、洗い物において日常的な節水励行 ・節水器具の設置

環境への取り組み



- ・廃棄物は、廃棄物処理法及び、行政ガイドラインに基づく分別を行い、産廃業者を通じて適正処理を実施しています。
- ・照明のLED化を促進しています。
- ・デジタルソリューション活用(給与明細電子配信等)によるペーパーレス、業務効率向上を図っています。
- ・拠点間移動の削減にオンライン会議システムを有効活用しています。
- ・不在エリアの空調及び照明電源OFF、温湿度計の設置による適切な室温管理の徹底を図っています。
- ・埼玉県「彩の国ロードサポート」団体に認定、道路環境作りの清掃活動を実施しています。
- ・社有車の低公害車(HEV/PH-EV/EV)導入と充電器の設置を促進しています。



EV用充電器



Honda e



歩道部の清掃活動

SDGs 取り組み紹介③

健康・安全への取り組み



- ・従業員の感染症対策(三密、非接触)に有効な機器、機材を設置する等、業務遂行への支障も併せて防止する仕組みづくりを行い、従業員の感染抑止、不安解消に努めている。
- ・ペットボトルキャップの寄付(ワクチン寄付)、献血運動、自販機を通してのハートフル福祉募金の協賛等、社会福祉に役立てる活動を社員と一体感を持って推進している。
- ・AEDを必要とする緊急事態が発生の際、近隣に速やかに貸し出しが出来る様、玄関先に設置。毎年、取扱い講習を実施している。
- ・交通安全委員会の活動として、交通違反・事故の未然防止に役立つ情報の提供や定期的に地域と連携した交通安全立哨を実施する等、交通ルール遵守と交通安全意識向上に取り組んでいる。
- ・飲酒運転撲滅を推進する為、アルコールチェッカーに依る運行前点検の徹底を図っている。
- ・喫煙専用スペースの設置、喫煙時間帯設定等の分煙化を経て、従業員への受動喫煙防止を図るため、敷地内完全禁煙化を実現している。



【AED設置】



【感染症対策】

●CO2濃度測定器の設置

「各執務室等に設置し、1,000ppm以上になった場合に換気を行います」



●UVストリーマ空気清浄機の設置

「各執務室等に設置し、終日稼働させています」



●自動アルコール噴霧器の設置

「執務室への入り口等に設置し、入室前に手の消毒を行います」



SDGs 取り組み紹介④

水使用量の削減



- ・節水器具の取付け可能な蛇口への装着及び、節水タイプの蛇口を設置している。
- ・手洗いや、洗い物において日常的な節水励行を行っている。

働きがいと経済成長



- ・障がいを持たれた社員のサポートを通じ、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。
- ・女性活躍推進法に基づき行動計画の策定・情報公表を行っている。
- ・産前産後の休暇・育児休暇・時間短縮勤務の100%承認を図る等、職場復帰へのサポートをしている。
- ・同一労働同一賃金ガイドラインに沿った社内体制の整備・対応を推進している。

人材育成



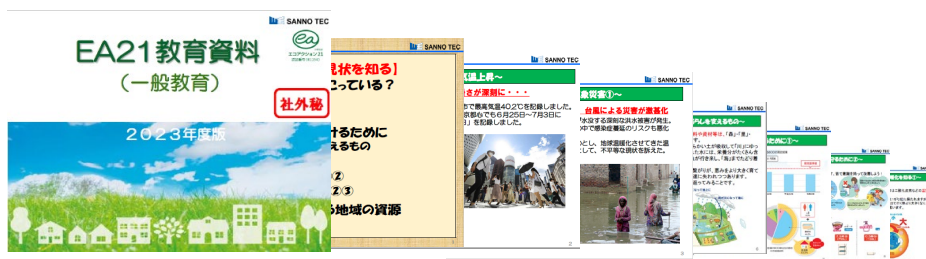
- ・階層・役職別研修、Hondaエコ マイレッジ チャレンジへの新入社員の挑戦等、従業員のポテンシャルを高める取り組みを行っている。
- ・情報セキュリティ及び、環境教育の機会を定期的に設け、実施している。

【Hondaエコ マイレッジチャレンジ】



【環境教育の実施】

環境対応情報や災害事例、SDGs等について、独自に作成した資料を基に社内教育を実施しております。



SDGs 取り組み紹介⑤

【消防訓練】

当社の業務は、パソコンを使用したオフィスワークが中心の為、“緊急事態の訓練”として、オフィス火災を想定した消防訓練を実施しております。

《消火訓練》



《避難訓練》



《放水訓練》



《通報訓練》



《煙体験》



《避難器具組立訓練》



【AED取扱い講習】

当社は、社会的責任の一環として、AEDを設置しており、毎年取扱い講習の受講を推進しております。

胸骨圧迫実習



人工呼吸の実習



AEDの使い方実習



環境活動キャンペーン（43期）①

■ECOキャップ回収強化月間



「キャップのリサイクル」
「ワクチンの寄付」
「障がい者支援」を通じて
3つの社会貢献を行っています



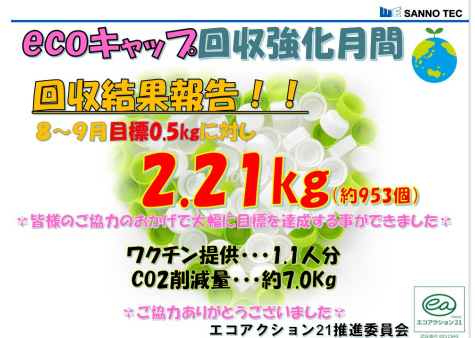
2023年8月1日～9月30日の2ヶ月間をECOキャップ回収強化月間と定め、従業員の方に自宅で収集したキャップの持参を頂き、年間目標を達成致しました。環境意識の高まりからマイボトルを持参する従業員が急増しており、次年度以降もキャンペーン運動の継続を図り、ワクチン寄付に繋げてまいります。



【本社】



【東日本事業所】



【鈴鹿オフィス】

■環境標語募集キャンペーンの展開

2023年10月30日～11月10日を募集期間として、埼玉地区全従業員を対象に『環境標語募集』キャンペーンを展開しました。

自社の建屋に勤務する従業員以外にも、お客様先での受託業務の推進や派遣勤務として働く、多くの従業員が、地球温暖化等の環境改善を共通の課題としてベクトルを合わせる活動が展開できればと考え、企画しました。

結果、141名の従業員から総数260点にも及ぶ応募を得る反響があり、従業員の環境への関心の高さが再確認されました。

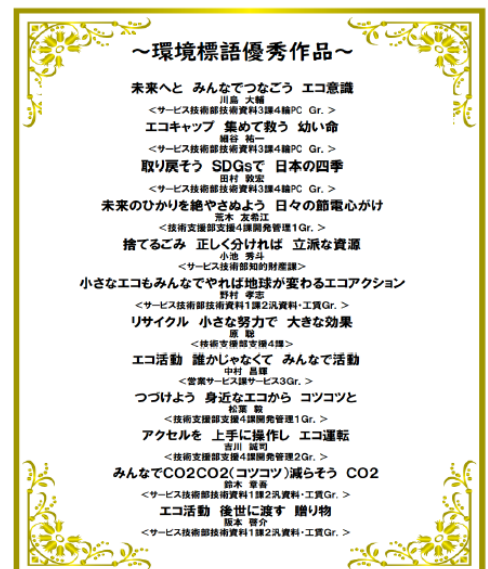
埼玉地区従業員各位

2023年12月15日
エコアクション21推進委員会
委員長 原 昇

環境標語優秀作品選出の結果<43期>

日々の業務お疲れ様です。

今回募りました、環境標語募集に141名の方より、260件の標語を応募頂くことが出来ました。日頃の環境活動へのご理解、ご協力に重ねて委員一同、御礼申し上げます。協議の結果、受賞作品を下記に決定、副賞として、Quoカード3,000円を贈呈致します。



*選出標語は、今後の委員会活動PRに活用させて頂きます。

エコアクション21推進委員会

環境活動キャンペーン（43期）②

■前年に引き続き『エコアイデア募集』キャンペーンを展開

2023年11月1日～11月14日の期間にて、栃木/鈴鹿地区従業員を対象として『エコアイデア募集』キャンペーンを前年に引き続き展開しました。

採用したアイデアは、潤いをもたらすグリーンオフィス環境、駐車場等の除草による廃棄物抑制に繋げる堆肥生成と循環を図る活動に結び付けました。

今後も従業員に潜在しているアイデアの発掘、実現に向けた活動を継続して参ります。

43期 EA21委員会活動
観葉植物を育てましょう！
～小さな積み重ねをひとりでも多くの人に～

一人当たりの二酸化炭素排出量（製造部門、燃料燃費）

項目	2022年度	2021年度
製造部門	1.3%	1.7%
燃料燃費	4.0%	8.2%
その他	23.0%	5.1%
合計	28.3%	14.9%

2021年度
一人当たりの二酸化炭素排出量
1,780 tCO₂/t人
（製造部門・燃料燃費）

観葉植物のCO2吸収効果は、年間に人間が排出する二酸化炭素量1,780kg（左の図）に対し、一鉢1.5kgで効果としては少ないですが、**ストレス**や**視覚疲労の軽減**にも有効と言われています。緑色は目のリフレッシュや疲労感の緩和に期待でき、オフィス空間にさわやかな印象を与えます。

皆さんもぜひ一緒に観葉植物を育ててみませんか。このような小さな取り組みの積み重ねがより良いオフィス空間を作っていきます。

小さな鉢からになりますが…ご自分のデスクに観葉植物を置きたい等の希望があれば、株分けする事もできますので、お気軽にEA21委員へお声がけください。

エコアクション21推進委員会



コンポストを用いた堆肥作り

トピックス



2023年8月26日、「宇都宮芳賀ライトレール線」が開業！

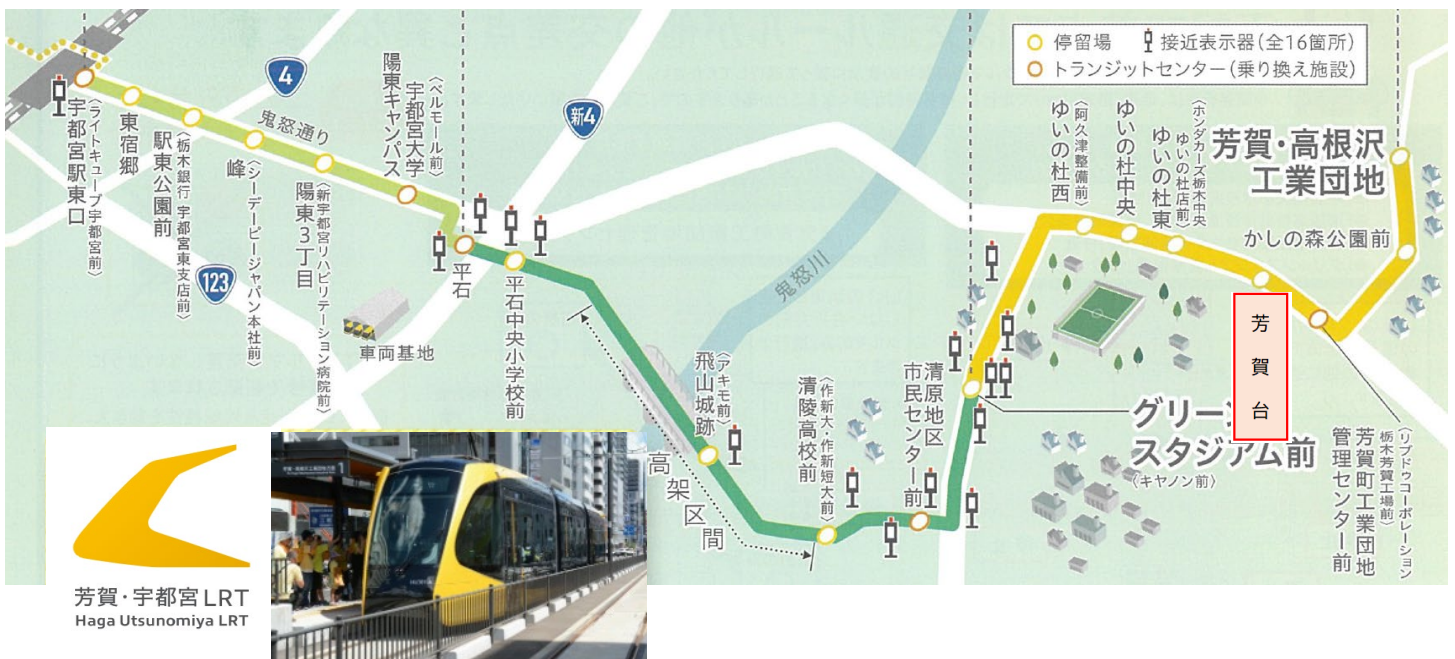


LIGHTLINE 芳賀・宇都宮
8.26 2023 LRT開業!!!
START!!! ライトライン



■2023年8月26日、『宇都宮芳賀ライトレール線』が開業！

表紙の写真の通り、当社の東日本事業所は、LRT「芳賀台」停留所に隣接しており、お客様先への訪問、社員の通勤は勿論のこと、当社の埼玉県、三重県の拠点からの移動にも東北新幹線との連絡が良くなり、公共交通機関の利用促進、CO2排出量の削減に貢献しております。



LRT（次世代型路面電車システム）とは、「Light Rail Transit（ライト・レール・トランジット）」の略称で、各種交通との連携や低床式車両（LRV）の活用、軌道・停留場の改良による乗降の容易性などの面で優れた特徴がある次世代の交通システムのことです。

代表者による全体評価と見直し・指示

2023年度は、ロシアのウクライナへの侵攻の終結が見えない中、イスラエルとパレスチナの武力紛争の勃発、世界各地での気候変動がもたらす自然災害、物価の高騰と社会情勢の不安定さが増す、多くの困難に直面する一年となりました。

一方では、新型コロナウイルス感染症が5月より5類感染症に移行後、生活様式がコロナ禍前に回帰し、リアルでの交流機会が増え、社内の雰囲気も明るく活動的となりました。

43期事業計画も概ね目標を達成し、アフターコロナ時代の幕開けとして、良い一年となりました。

環境活動としては、事業活動の活発化に比例し、拠点間の往来など、移動機会が増加しましたが、プラグインハイブリッド車を優先的に長距離移動に活用することで、燃料消費量の抑制に繋げることが出来ました。

又、前年より準備を進めてきた、“再生可能エネルギー100%電力”への切り替えを7月に実施し、電力使用に於けるCO2排出量の実質ゼロ化が実現出来ました。

2016年にエコアクション21認証を取得後、委員会活動を起点とした環境活動を展開して参りましたが、年2回のキャンペーン（エコキャップ運動、環境アイデア、環境標語の募集）を実施するなど、活動の深化と定着が認められました。

これからも環境目標値の達成に留まることなく、SDGs推進等の社会貢献も含め、従業員との一体感を持った、環境経営に取り組んで参ります。

代表取締役社長 **吉岡 勇**

見直し項目		変更の必要性	『有』の場合の指示事項等
1	環境経営方針	☐ 有 ☒ 無	
2	環境経営目標・計画	☐ 有 ☒ 無	
3	実施体制	☐ 有 ☒ 無	